

- ・学校と交流館が相互の主体性（持ち味やモノ）を保持しながら、別個ではできないものを協力して実施することにより、より良い学習活動と施設活用が期待できる。
- ・生涯学習課内の教職経験職員が連携の窓口となって、学芸員の想いや学校現場での経験等を活かしながら、授業に関する連絡・調整を行う。
- ・学校は交流館にすべてを委任するのではなく、「授業」という性質を担保するため、原則として指導略案を作成し協議をしながら準備・実施する。

究極目標：故郷や地域を胸に社会へはばたく「とうかいっ子」を育む

